

れたね。」と声をかけてくれました。その作品は、家元の人や先生からもほめられ、私の良い思い出となりました。

今思いかえすと、本当にたくさんの方が支えてくれました。たくさんの方が心配し、はげましてくれて生けた作品は、今まで一番美しかったと思います。私はたくさんの人達の親切を素直に受けとることができなかったけれど、これからの社会は、素直に親切が受けられる、親切があふれる社会だといっています。これからもこの日の出来事を胸に、自分にできることはできるだけし、生け花も続け、いつか、支えてくれたその人達に、「ありがとう。」と、この一言を伝えたいです。



「国見の優つた」



国見中学校三年

野上 栞

今年の春休み、部活で走っていると、地域のおばあさんが地面に座っていて、私は「どうしたのかな」と思いながら走っていました。近くに行ってみるとそのおばあさんは、歩道にはえている草をぬいでいたのです。春といってもその日は太陽がキラキラ照っていて夏じゃないと思うくらい暑い日でした。おばあさんは、麦わら帽子をかぶり半そでを着て草を取っていました。地面も太陽の熱で熱くてすごく大変だろうなと思いました。しかし、私は部活で走っているため手伝うことができませんでした。そこで私は大きい声で「こんにちは。」とあいさつをしました。すると、おばあさんが顔を上げて「こんにちは。」とかえしてくれました。その時初めておばあさんの顔を見ました。大変な仕事をしてくれているにもかかわらず

笑顔であいさつをかえしてくれました。私は3周走っていたのでそのおばあさんに3回会いました。そのたびに「こんにちは」とあいさつをしました。2周目の時には最初会った場所より少し違う場所でした。3周目にも場所を移動していました。その道はおばあさんが草をとってくれた所はすごくきれいになっていました。しかし、私はおばあさんに「ありがとうございます。」と言おうと思っていたけど、言うことができませんでした。その後もおばあさんは草取りを続けていました。

国見の地域の人は本当に優しい方々です。夏休みや冬休みの長期休暇の時には、学校の校門にある花だんの草を取ってくれたり、しばふになっていく草を取ってくれたりしています。そのおかげで新学期に学校に来ると、休みに入る前よりもきれいになっていくことがよくあります。しかし、草を取ってくれているのが私たちが学校にいない時なのでなかなかお礼を言うことができません。そして、私

が一番すごいと思っていることは、人がいない時にするということです。みんなに見えるようにするんじゃないかと、みんなに見られない時にみんながしたくないような大変な仕事をしてられています。地域の人の支えがあつていまの国見中学校があるんだと思います。

私たちはいろんな人に支えられて生きています。中学校生活もすごく生活しやすい環境にあります。それは、国見中学校をかげで支えてくださる人、地域の人がいるからだと思います。その感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。そして私もこれから、人や学校などをかげで支えていけるような大人になりたいです。表で人に見られてするよりも、裏でなにかをして人の笑顔が見られる様な親切もいいかなどこのことを通して感じました。これから、私たちにしてくれた親切を恩返ししていきたいような努力をしていけたらいいと思います。